



## ニューモプロの組み立て方

風車ホルダーの出入口をほんの少しそっと開きます。

図のように、頭部管上に風車ホルダーをていねいにすべらせて取りつけます。



## 正しい位置

位置を正しくするために、この平らな部分が地面と平行になるように保ちます。

いい位置を保つために、この上に一円玉を置いてバランスをとるようにしてみると、いいでしょう。



## ニューモプロ・ウィンド・ディレクターを使った、美しいフルートの音色を出すための指導

最初の低い音を出すとき、下唇にニューモプロをあてます。そのとき、4つめのアンブシャーの穴以上はふさがないようにします。上の歯の上に空気孔がくるように、それから上唇をつかって一番下の風車にまで空気を送りこむようにさせます。空気の流れが、唇の間で長く安定したものになるはずですが。

低音域のアンブシャーで一番下の風車をいつも回るようにして吹き分けることができるようになれば、風車の回転の速さと回転している時間の長さをチェックしてください。完璧でいい響きの低音域の音を出させるために、一番下の風車は速く回転させなくてはなりません。それができるようになれば、回転音をできるだけ長く出すことができるようになります。

長い「ルー」「ムー」といった音を、少なくとも連続して5回一番下の風車で吹き分けることができるようになると、フルートの頭部管に空気を繰り返し出し入れする準備ができたこととなります。もちろんいつも鏡でチェックしながら練習する必要があります。上唇を下手に前に出しても、一番下の風車を回転させることはできてしまいます。ですから、正しいアンブシャーで一番下の風車を回転させるように練習しなくてはなりません。ですから、鏡を見てチェックしながら練習していただくのがいいでしょう。

頭部管の端にニューモプロをつけないで吹いても、完璧でいい響きの音色を出せるという気持ちになってきましたら、今度は、頭部管の端にニューモプロを取りつけます。すると、今度は7段階下げた音域の音を出せるようになるでしょう。初心の方にとっても、完璧で混じりけのない音が基準として出せるようになっていくのです。

## 超高低の変化の大きい頭部管を使った練習方法

頭部管をとりつけて練習してみましょう。

頭部管にニューモプロをつけて、練習してみましょう

1) 唇の下に人差し指を当てて鏡を見て練習します。唇の開き具合をより高い音を出すときのように小さめにすることに集中します。唇の内側の濡れた部分を「くっつける」ように、そして空気を使って唇を開くようにさせます。

2) もう一度鏡を用います。が、こんどはニューモプロをとりつけて一番下の風車から次の風車まで風が上がってきてより高い音が出るように、風の方向の変化を確認できるでしょう。

3) 図1の楽譜、あるいは頭部管を吹いて超高いか低いかの音を吹くのに挑戦してみましょう。最初は低音域だけ、それからだんだん高音域に取り組んでみましょう。

4) 生徒さんはニューモプロを取りつけて、書かれている一節を「吹いて」みます。講師は、頭部管で吹いてみてください。生徒さんは、ニューモプロを使えばアンブシャーが変化すると音域が変化するの聞きとれるようになることでしょう。

5) 頭部管で、楽譜どおり、一節を吹いてみます。より高い音を出すために頭部管でローリングをしないことが大切というのをしっかり指導してください。頭部管でローリングをすると、高めの音を吹きやすくなるでしょうが、ひどい音が出ます。頭部管ではなく、唇を動かさなくてはなりません！！

6) 唇の開き方と空気を吹きこむ方向が正しくなると、つい強く吹いてしまうようになりがち。もっと高い音を出そうとして強く吹かせないようにしてください。

7) この練習を正しく習うと、初心の方はフルートをうまく吹けるという驚くほどのインパクトを得られます。これは熟練した方たちにとってさえ、非常にいいウォーミングアップになります。

1

2

3

4



低い音のアンブシャー

低い音を吹くときは、唇の開き方は大き目に



高い音のアンブシャー

高い音を吹くときは、唇を突き出し、下唇の開き具合を使って吹きます

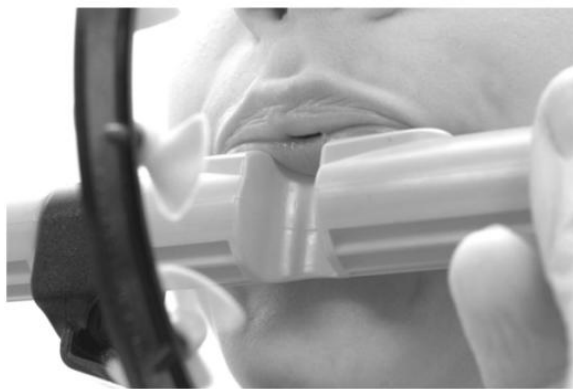
超難度の高い頭部管をつけての練習  
練習者だれにとっても最適の毎日のウォーミングアップ  
頭部管を覆わないで、練習します。

ニューモプロを使って練習するときは、低音をだすためには、一番下の風車が回るようにします。

高音をだすためには、下唇の開き具合と上唇の動きを使います。

(こうすると、ニューモプロの2つ目、3つ目の風車まで風を送ることになります)

高音を吹こうと、強くふきすぎないように！



1) こうした超難度の高い頭部管をつけての練習は、とてもいいウォーミングアップになります。頭部管に取りつけないで、吹く練習をしてください。

2) ニューモプロのスピンのを使って練習するときは、一番下の風車は、一番低い音のためにあります。唇を少し開いて、より高い音に達するように上唇の動きを練習します。(これがニューモプロの2つめ、3つめの風車に空気を送り込むことになりま)

3) 高音をだそうとして強く吹きすぎないようにしてください。

4) この写真をご覧ください。ニューモプロの2つ目、3つ目の風車を回すために唇をちいさく開いてつきだした形が、高音を出すためのアンブシャーです。

5) 目標は、できるだけ早く柔軟なアンブシャーに達することです。もし、もっと高い音域で練習を始められるまで待っていると、はるかに難しくなることでしょう。生徒さんの多くはこの練習方法だと、とても簡単だとお感じになるでしょう。これでも難しいと思われる方は、唇を小さく開く形を練習することで、うまくなっていきます。もっと高いオクターブを吹くための柔軟性は音域と、美しさを大きくレベルアップさせ、あらゆる音域のトーンに集中させてくれます。

## 柔軟なアンブシャーのためのハーモニックなフルート練習

それぞれのスラーの始まりの音を指でなぞり、そのスラーのおしまいまでなぞってみてください。もっと高い音を出そうとして強く吹きすぎないように、むしろピッチが上がるにつれて唇の開き方をだんだん小さくしていってできるだけ柔らかく吹くようにします。

唇の内側の濡れている部分を固くとじたアンブシャーの形を作ってください。鏡でアンブシャーの変化を見ながら練習します。

次は、ニューモプロを使ってピアノの高音についていけるように唇の動きを練習します。

この練習をすればするほど、ピッチを練習している間スピンの回転するにつれ、ダイナミックな変化が起こることがわかります。

ひとつ目の風車は、一番低い音を表しています。

一番低い音の風車を回す練習を通して、フォルテを出すためにできるだけ速く回転させるということになるはずで、一方3つ目の風車はピアノに合わせられるようできるだけゆっくり回転させるということになります。

The musical score consists of four measures of music in 4/4 time, each measure containing a slurred phrase of notes. Fingerings are indicated by numbers 1, 2, and 3 above the notes. Dynamic markings *f* (forte) and *pp* (pianissimo) are used to indicate volume changes. The notes and dynamics are as follows:

- Measure 1: Notes G4, A4, B4, A4, G4. Dynamics: *f* (under G4), *pp* (under B4), *f* (under G4). Fingerings: 1 (G), 2 (A), 3 (B), 2 (A), 1 (G).
- Measure 2: Notes F4, G4, A4, G4, F4. Dynamics: *f* (under F4), *pp* (under A4), *f* (under G4). Fingerings: 1 (F), 2 (G), 3 (A), 2 (G), 1 (F).
- Measure 3: Notes E4, F4, G4, F4, E4. Dynamics: *f* (under E4), *pp* (under G4), *f* (under E4). Fingerings: 1 (E), 2 (F), 3 (G), 2 (F), 1 (E).
- Measure 4: Notes D4, E4, F4, E4, D4. Dynamics: *f* (under D4), *pp* (under F4), *f* (under D4). Fingerings: 1 (D), 2 (E), 3 (F), 2 (E), 1 (D).